

学位研究 第11号 平成11年12月 (論文)

[学位授与機構研究紀要]

イギリス高等教育における「単位・モデューラー制度」

—単位累積加算制度を中心に—

The Credit-based Modular Systems in British Higher Education:
With Special Reference to CNAACATS and OU Rating System

安原 義仁

Yoshihito YASUHARA

Research in Academic Degrees, No. 11 (December, 1999) [the article]

The Journal of National Institution for Academic Degrees

はじめに	43
I 単位・モデュラーの概念と初期の試み	44
(一) 単位の理念と革新性	44
(二) モデュラー (modularity)	44
(三) 単位とモデュラーの共通点と相違点	45
(四) 初期の試み	45
II 学位授与評議会 (CNAА) の単位累積加算制度 (CATS)	45
(一) 単位累積加算制度 (CATS) の理念と仕組み	45
(二) CATS の単位換算方式と学位・資格の授与	46
(三) CNAА CATS モデルの拡がり	47
III オープン・ユニヴァーシティの単位累積加算制度	48
(一) CNAА CATS からオープン・ユニヴァーシティへ	48
(二) オープン・ユニヴァーシティの単位認定制度	48
(三) オープン・ユニヴァーシティのBA学位, BSc学位における単位互換	49
IV モデュラー制と単位制のモデル・パターン	50
(一) モデュラー制	50
(二) 単位制	51
おわりに	51
ABSTRACT	53

イギリス高等教育における「単位・モデュラー制度」

－単位累積加算制度を中心に－

安原 義仁*

はじめに

イギリスの大学・高等教育機関が授与する学士学位は一般に第一学位とかバチェラー学位 (bachelor's degrees) と呼ばれる。通常、フルタイムで3年 (スコットランドの文科系では4年) の学士課程 (undergraduate course) を履修し、所定の試験に合格した者に授与される。第一学位には普通学位 (pass degrees ないし ordinary degrees) と優等学位 (honors degree) の二種類あり、優等学位はより専門化した、より高度な水準の学位だとされる。大半の学生が目指すのは優等学位である。優等学位は試験の成績にしたがって第一級 (Class I), 第二級上 (Class II.I), 第二級下 (Class II.II), 第三級 (Class III) の四段階に分類されて授与される。

学位授与の際の合否や成績分類は、課程履修期間中の継続的な評価の累積による場合もあるし中間予備試験もあるが、最終学年次末に実施される一発勝負の最終筆記試験によるというのがこれまでの伝統的な方式である。全国的な学位制度が存在せず、それぞれの大学・高等教育機関が独自の学位授与権を有するイギリスでは、どのような種類、内容、名称の学位を授与するかやその取得要件は各大学・高等教育機関によって異なるわけだが、基本的には、3学期 (term) 3学年制の最終試験 (final examinations) による、単一の学問領域に基づく優等学位 (the integrated coherent single honours degree) が、イギリスの第一学位の規範とされてきたのである。いわゆるエリート型高等教育システムのもと、教師と学問を中心に考案された学位授与方式である。高い水準の中等教育修了資格を持って18歳で大学に入学し、フルタイムで学ぶ学生を主たる対象として、一定の期間に教師が専門の学問の論理にしたがって考案した履修課程をいわば受け身のかたちで学習させるという方式である。パートタイムで学ぶ学生や成人学生などいわゆる非伝統的な学生の立場からすれば、柔軟性に乏しく融通の利かない方式であった。

こうした伝統的・規範的な学位授与方式 (カリキュラム・モデル) に対し、高等教育のマス化とそれに伴う学生の多様化を背景に、1960年代以降、別のかたちのモデルとして考案され徐々に発展しつつあるのが「単位・モデュラー制度」(Credit-based Modular Systems, CBMS) である。「単位・モデュラー制度」はそれぞれ別個の概念である「モデュラー制」と「単位制」とを合わせた総称的一般概念であり、実際の具体的な仕組みとしては多種多様なパターンが存在する。

* 広島大学教育学部 教授

イギリスの高等教育における「単位・モデュラー制度」というのは一体どのようなものなのか。本稿ではその理念、歴史的展開、現状について概観し、わが国における「単位累積加算制度」について検討する際の参考に供したい。¹⁾

I 単位・モデュラーの概念と初期の試み

(一) 単位の理念と革新性

何らかのかたちで「単位・モデュラー制度」を導入しようとする際にまず理解しておかなければならないのは、単位 (credit) とモデュラー (modularity) についての正しい認識だと言われる。両者は異なる別個の概念であり、それぞれ独自の理念を有するものだというわけである。また、モデュラー制にせよ単位制にせよ、多様な形態がありうるにもかかわらず、オープン・ユニヴァーシティのシステムや学位授与評議会 (CNSA) の単位累積加算制度 (Credit Accumulation Transfer, CAT) など特定のモデルを唯一のモデルとしてみなす傾向がみられるが、これも事柄の正確な理解を妨げかねないものだと指摘がある。²⁾ 単位とモデュラーはどのような概念なのか。両者はどう異なるのか。まずは単位からみてみよう。³⁾

単位の基本的理念は以下のようなシンプルかつラディカルなものである。すなわち；

- ①学習は場所を問わずどこでも為されるものである (ある特定の教育機関において為される必要はないし、フォーマルなものでなければならない必要もない)。
- ②どのような学習も測定され一定の価値を付与されうるものである。また学習の「規模」についての基準もない。
- ③獲得された単位はある学習の場から別の学習の場へと転移されうる。
- ④単位の互換性を最大限確保するためにはその互換性を高めることが必要となる。

要するに、学習は測定され (measured)、累積され (accumulated)、転移され (transferred) うるものだというのが単位に関する基本的原理なのである。そして、こうした性格・要素をもつ単位という概念は、学習はある特定の教育機関内において、一定の限られた期間に、教授陣が定めた規則にしたがって為されるものだという伝統的なイギリス高等教育の基本的前提に挑戦するきわめて革新的なものなのである。

(二) モデュラー (modularity)

いっぽう、モデュラーは以下のようなものとして考えられている。すなわち；

- ①「フォーマルな」学習—その大半は教育機関内で為される—は、ユニットあるいは「モデュール」と呼ばれる独立したブロックに分けられうるもので、学生はブロックごとに学習し成績評価を受ける。
- ②各ブロックは相互に関連づけられ、学生はこれらのブロックを積み上げることによって然るべき学業資格を目指す。

要するに、モデュールは学業の内容と成績評価の点において独立したもので、それらの組み

合わせと積み上げによって一定の学業資格に通ずる全体を構成するのである。そして実際上はともかく、原理的にはモジュールの規模についての基準はないとされる。

(三) 単位とモデューラーの共通点と相違点

単位とモデューラーは、①学習は個々の独立したブロックによって構成することができ、その成果は各ブロックごとに評価されうる、②学習をより柔軟なかたちにする装置であり、学習の方法、時間、場所に関して学生に豊かな選択肢を提供するなどの点で共通点を有する。しかしながら他方、両者には重要な相違点がある。モデューラーが一つの高等教育機関内で機能するのに対して、単位は個々の教育機関や教育機関一般の枠を超えるのみならず、フォーマルな教育の壁すら超えうるものだという点である。

モデューラーはある高等教育機関のカリキュラムと運営組織を再編する可能性を持ち、単位はどこで為されたものであるかを問わず学習を評価・換算する潜在力を有する。モデューラーと単位は種々の目的に照らし、別個にも共同でも多様なかたちで活用しうる学習の装置なのであり、その活用の仕方が肝要ということになる。

(四) 初期の試み

単位制・モデューラー制についての言及は1963年の『ロビンズ報告書』においてすでにみられるが、イギリスでこの考え方を最初に導入したのはオープン・ユニヴァーシティ（OU）であった。1969年の創設以来オープン・ユニヴァーシティは成人学生に大学教育機会を広く開放し、パートタイムで学ぶ学生の必要に応ずるべく単位制・モデューラー制の原理を導入した。パートタイム成人学生の大学教育への接近を促進するためには、カリキュラムの構造を柔軟で弾力的なものにする必要があり、その手段として単位制・モデューラー制が採用されたのである。⁴⁾

1970年代にはオックスフォード・ポリテクニク（‘Oxford Poly scheme’）やシティ・オブ・ロンドン・ポリテクニク（‘City of London scheme’）などいくつかのポリテクニクにおいてモデューラー制の導入が図られた。それは伝統的な「3年制一貫学位の専制」（‘tyranny of the three-year degree’）を打破する挑戦として試みられたもので、課程履修における学生の選択の幅を拓げるものではあったが、その主たるねらいは学内におけるカリキュラム運営上の権限関係の変革に置かれていた。そして、それらの試みはやがて学生中心のカリキュラム・モデルから離れたものとなってゆき、単位制・モデューラー制推進派からも批判を受けるに至る。⁵⁾

II 学位授与評議会（CNAА）の単位累積加算制度（CATS）

(一) 単位累積加算制度（CATS）の理念と仕組み

単位制・モデューラー制をめぐる論議は1970年代後半から1980年代初頭にかけて活発に行われたが、それが具体的なかたちとなって実現をみたのは1980年代半ばのことであった。とりわけ1986年における学位授与評議会（Council for National Academic Awards, CNAА）の単位累積加算

制度（Credit Accumulation Transfer Scheme, CATS）の発足は、単位制・モジュラー制のその後の発展を大きく方向づけるものとなった。⁶⁾

CNAАのCATSは「より開放的で柔軟な高等教育システムの創出を推進するに際し、高等教育に関わる種々の機関を援助すること」を意図して発足した。「高等教育レベルの学習は、それがどのような場でなされるかにかかわらず、適切に評価されさえすれば、CNAАが授与する学位・資格取得要件の一部として換算される」というのがその基本理念であった。学ぶ学生の立場からいえば、前もって承認された学習計画にしたがい、その学習内容が然るべき権威ある団体によって評価されるのであれば、さまざまな場所で学習した経験を正規の単位として認定・換算してもらい、それらの単位を累積することによってCNAАの学位・資格を取得することができる、というわけである。

企業内教育・訓練や余暇学習等での実際的な学習経験をアカデミックなものとして評価し換算する既修実地学習経験の評価（Assessment of Prior Experimental Learning, APEL）を含め、既修学習経験の評価（Assessment of Prior Learning, APL）はおおよそ以下のような手順によるとされた。

- ①学習者自身による既修学習経験についての体系的検討
- ②既修学習経験による学習成果の証明と、獲得した知識・技能についての正確な申告
- ③申告を裏付ける証拠についての総合的検討
- ④CNAАのCATSの規定に照らしての、評価委員（academic assessors）による既修学習経験の評価・換算

CATSで学習しようとする者はまず、CNAАに対して自己の学習計画を提出し、CATS学生としての登録を申請する（登録申請はCATSに参加・提携している高等教育機関や企業等でも可能）。CNAАは学生からの申請に対してその学習計画を審査し、それがCNAАの規定に照らしその目的、内容、期間等の点でCNAАの学位・資格取得に充分通じるものだと判断すれば、CATS学生として登録する（CNAАが授与するあらゆる学位・資格の取得が可能だが、研究学位のみは例外）。こうして学生は自己の学習計画にしたがい、大学やポリテクニックやカレッジ、あるいはまた企業や職業訓練機関など種々の（複数の機関にまたがる場合もある）場で学習をすすめてゆくことになる。学位・資格取得に至るまでの期間に関する制限もないので、学生は自分のペースで学ぶのである。

（二）CATSの単位換算方式と学位・資格の授与

そこで、各学習の場での学習経験の評価・換算の仕方、それらの学習経験の成果の累積による学位・資格授与の仕組みであるが、それはCNAАが取り決めた以下のようなCATS単位換算システム（CNAА CATS credit tariff system）に準拠しておこなわれる。

- ①まず学習の最小単位（unit of study）はおおよそ1週間程度のフルタイム学習に相当するものとされ、個々の学生の学習計画はこれらの単位によって構成されるが、1単位＝4単位（credit points）が換算の基礎とされる。

②単位換算は3年間のフルタイム第一優等学位コースを基準とし（最低90週間程度のフルタイムの学習すなわち単位数でいえば360単位相当）、学習内容の水準は第一優等学位コースの各年次の水準にしたがいそれぞれレベル1、レベル2、レベル3の3段階に分けられる（第一学位以上の水準はMレベル）。

③単位取得者には各レベルの取得単位数によって以下のCNAА学位・資格が授与される（発足当初の段階での取り決め）。

レベル1の単位120以上＝高等教育修了資格（Certificate of Higher Education）

レベル1の単位120以上＋レベル2の単位120以上＝高等教育修了ディプロマ（Diploma of Higher Education）

レベル1の単位120以上＋レベル2の単位60以上＋レベル3の単位60以上＝第一普通学位（unclassified Degree）

レベル1の単位120以上＋レベル2の単位120以上＋レベル3の単位120以上＝第一優等学位（Honors Degree）

Mレベルの単位70以上＝大学院ディプロマ（Postgraduate Diploma）

Mレベルの単位120以上＝修士学位（Master's Degree）

なお、それぞれの学位・資格取得に必要とされる単位の半分までは既修の実地学習経験によって振り替えることが可能とされた。

以上の単位換算方式は学習時間数を基礎としたものだが、学位・資格の授与はそうした量的な指標のみによるわけではなく、もちろん学習の達成度に基づく成績評価を考慮しておこなわれる。CATSの教育水準は、CNAАの研究教育委員会に対して責任を負うCATS内の委員会のコントロール下に置かれ、個々の成績評価の決定はCNAАの学外試験委員会によってなされるのである。

（三）CNAА CATSモデルの拡がり

こうして発足したCNAА CATSはやがて、高等教育機会の開放と学習の柔軟化・弾力化を模索する大学・高等教育機関にとって格好のモデルを提供することとなった。多くの大学・高等教育機関でCNAА CATSをモデルに類似のCATSユニットが設けられ、担当者が置かれてCATS学生を積極的に受け入れ始めた。CNAА CATSモデルはその単位換算方式や水準維持方式などを通じて単位累積加算制度発展のための全国的な標準・枠組みを提供し、その可能性と意義を強く訴えるものとなったのである。「CNAА CATSがなかったなら、イギリスの高等教育において単位制度は依然、「見放された孤児」のような存在になっていたであろう」と評価されるゆえんである。

大学・高等教育機関のなかで、とくにCATSの導入に熱心だったのは一群のポリテクニクであった。個々のポリテクニクにおいてその導入をめくりさまざまな試みがなされ、単位累積加算制度は徐々にイギリス高等教育界に浸透していった。そしてやがて、いわゆる「クレジット文化（culture of credit）」の勃興を導くに至る。他方これと併行してモデューラー制も普及・拡

大してゆき、単位・モデュラー制は学習者を中心とした弾力的な高等教育の学習形態として定着してゆくのである。⁸⁾

ちなみに1990年代後半の時点でみると、大学・高等教育機関の90パーセントが何らかのかたちで単位制・モデュラー制を導入しているという。ある調査によれば、モデュラー制を全面的ないし部分的に採用している大学・高等教育機関は67パーセント、単位制を全面的ないし部分的に採用しているところは26パーセントで、旧来の伝統的な最終試験方式のままの大学はわずか7パーセントに過ぎない。また別の調査では、1992年以降、約60パーセントの大学がモデュラー制ないし単位制に移行し、80パーセントの大学・高等教育機関が単位制を採用したという。各大学・高等教育機関で単位制・モデュラー制がどのようなかたちでどの程度導入されているかは細かく具体的にみてゆく必要があり、一概には言えないが、単位制・モデュラー制が急速な普及・拡大を遂げていることは確かな事実であろう。⁹⁾

Ⅲ オープン・ユニヴァーシティの単位累積加算制度

(一) CNAACATSからオープン・ユニヴァーシティへ

イギリスにおいて単位累積加算制度は、1986年のCNAACATSの発足以降、急速に発展していった。しかしモデルを提供した当のCNAA自体は1992年におけるポリテクニクの大学昇格を受けて1993年に解散となり、CNAAが蓄積してきた高等教育に関するさまざまな情報・知見・ノウハウは主として高等教育品質保証カウンシル (Higher Education Quality Council, HEQC) とオープン・ユニヴァーシティ (OU) に受け継がれていった。CNAAの遺産のうち高等教育機関の課程認定や単位累積加算に関する事柄についてはオープン・ユニヴァーシティがこれを受け継ぎ、1992年に「オープン・ユニヴァーシティ教育認定サービス部門」(Open University Validation Services, OUVS) を設置して新たなかたちでの事業の継続・展開をはかることになった。¹⁰⁾

(二) オープン・ユニヴァーシティの単位認定制度

OUVSが実施する単位認定 (Credit Rating) 制度は、産業や商業、専門職団体、教育機関、職業訓練センター等々さまざまな場で提供されている学習プログラムを、既存の高等教育資格との比較の下に、全英で広く認められている単位累積加算制度 (CATS) の単位換算方式に照らして評価・認定し、これに一定の単位 (credit points) を付与するものである。単位認定は学士課程ならびに修士課程レベルの両方において可能とされている。OUVSの単位認定制度の特色としては、様々な場での高等教育の学習プログラムの提供者と学習者の双方に自信と動機を与え、学習成果の「転移価値」(transfer value) を高め、大学・高等教育機関での学習と職場での学習とを結合させることが挙げられている。

OUVSの単位認定は個人レベルでも行われる。高等教育機関での学習コースを履修している学習者が別の場で得た学習成果を単位として認定し、当該学習コースの履修内容の一部に組み入れられるようにする。そのことによって高等教育資格取得に至る学習者の時間と費用が軽減

できるというわけである。単位の認定は学習者の申請に基づき、学習成果の内容、学習成果の評価方法、学習と評価双方の質と一貫性を資料に基づいて審査・確認するという過程を通じてなされ、学習内容の水準と量によって単位が付与されるのである。

(三) オープン・ユニヴァーシティのBA学位、BSc学位における単位互換

OUVSの単位認定制度はおおよそ上記のようなものだが、これとは別にオープン・ユニヴァーシティ自体が授与する学位・資格においても単位互換制が採り入れられている。次にBA学位とBSc学位の場合を例にその仕組みを具体的にみてみよう。

オープン・ユニヴァーシティのBA学位ないしBSc学位は通常、以下のような方法・手順を経て取得される¹¹⁾。

- ①入学登録資格は問われない。
- ②大半のコースは2月に始まり10月に実施される試験で終了する。
- ③大半の学問領域において、1コースには30ポイントないし60ポイントが割り当てられている。
- ④30ポイントのコースは少なくとも週7時間の学習、60ポイントのコースは少なくとも週14時間の学習を要するものとして構成されている。
- ⑤学生は同時に最大120ポイントまでコースを履修できる。
- ⑥学位の取得には360ポイントのコース履修が必要とされる。
- ⑦学位取得に至るまでの期間に制限はない。
- ⑧学生がオープン・ユニヴァーシティ以外の場で得た高等教育レベルの学習成果で、オープン・ユニヴァーシティが単位として認定したものについては学位取得に必要なポイントの一部として換算される（一般に360ポイントのうち最大で180ポイントまで）。
- ⑨普通学位の場合にはレベル1、レベル2のコースを履修するだけでよい。
- ⑩優等学位取得をめざす場合にはレベル3のコースから少なくとも120ポイントを履修する必要がある。
- ⑪履修するコースの選択に際して、特定の学問領域に限定する必要はない。
- ⑫授与される学位がBA学位になるかBSc学位になるかは、履修したコースのバランスによって決定される。

オープン・ユニヴァーシティのBA学位、BSc学位における単位互換は上記⑧にあるように、必要とされる360ポイントのうち180ポイントまで、すでに他の場で成功裡に履修された高等教育の学習成果を「転移された単位」(transferred credit)としてポイントに換算するというものである。そうした高等教育の学習成果は学問分野に関わりなくポイントとして認定されうるし、また特定のどのコースを振り替えたものかということも成績証明書には記録されない。単位互換はおおよそ次のような仕方になされる。¹²⁾

- ①転移された単位にはレベルの区別はされず、最初の120単位までは自動的にレベル1、その後の単位はレベル2として換算される。

②転移された単位はBA学位，BSc学位いずれの性格のものとも規定されない。したがって，取得する学位がBA学位になるのかBSc学位になるのかは，オープン・ユニヴァーシティでのその後のコース履修の選択の仕方による。

③転移された単位がどういう成績のものであったか，その成績分類（grades of pass）は転移されない。したがって優等学位取得をめざす場合，転移された単位は最低の成績分類（grade 4）として位置づけられる。

さて転移されうる高等教育の学習成果だが，それは試験や小論文などフォーマルなかたちで評価され合格と判定されたものに限られる。通常，コース修了時に交付される証明書がその証拠資料として考えられている。コース修了に至らない場合でも，証拠資料があればその学習成果は審査の対象となりうる。なお，コースに出席し聴講して学習したということだけでは十分ではなく，フォーマルなかたちで評価されないかたちの実地学習経験も考慮されない。既習の学習成果は学問的な性格のものでなければならないが，基本的に学問的な性格のものでその一部に実的な要素を含むコースに関しては配慮される。

オープン・ユニヴァーシティの学年度はフルタイムで30週から36週の学習から構成されており，フルタイムで1年の学習で60ポイント，半年の学習で30ポイントというのが標準となっている。そして転移されうる単位の上限は180ポイントとされている。

一定の他の大学・高等教育機関で学位コースを履修し始め，その後オープン・ユニヴァーシティの学位コースに移籍したいと望む学生の場合，それまでの学習成果（成功裡に履修された）に対してはフルタイムで1年の学習につき120ポイント，最大で240ポイントまで付与される。

既習の学習成果をオープン・ユニヴァーシティのポイントに換算してもらう場合に，申請者に課せられる費用は68ポンド（1997年度）。申請はいつでもでき，それに対する審査の回答結果は通常8週間以内に出されることになっている。

Ⅳ モデュラー制と単位制のモデル・パターン

イギリスにおいて「単位累積加算制度」はCNAACATSとオープン・ユニヴァーシティを中心に発展してきた。だが最初のところでも述べたように，単位累積加算制度はその基礎となる「モデュラー制」と「単位制」の組み合わせ方によってさまざまなかたちがありうる。「モデュラー制」と「単位制」自体にもそれぞれいくつかのパターンがある。最後にこの点についてざっと整理しておこう。¹³⁾

(一) モデュラー制

(1) モデュラー型学習コース (module-based)

これはある学習コースがいくつかの個々に独立した「モデュラー」から構成されている場合である。ただし，個々のモデュラーの規模は必ずしも同等のものとは限らない。学習成果の評価は各モデュラー毎におこなわれる。

(2) モデュラー・コース (modular-course)

あるモデュラー型学習コースを履修する学生が、別のモデュラー型学習コースから「モデュラー」を選択履修しうるかたちである。学生はある特定の学習コースの枠を超えて学ぶことができる。

(3) 学部学科レベル・モデュラー制 (a departmental or faculty module scheme)

モデュラー・コースの考えを学部学科レベルにまで拡大したもの。学生には同族同系の学問群からなる学科ないし学部内での履修選択の幅が大きく広がる。複雑な組み合わせの学習コースや主専攻・副専攻といった方式の採用が可能となる。

(4) 機関レベル・モデュラー制 (institutionally based modular scheme)

「モデュラー」の枠を当該の大学・高等教育機関全体に拡大したもので、この場合には学生は学科や学部の境界を超えて履修することが可能となる。

(二) 単位制

最初のところでも述べたように、モデュラー制がある大学・高等教育機関の枠内で機能するのに対して、単位制はその枠を超えるところに特色をもつ。単位制の場合には、単位が教育機関やフォーマルな教育の場で得られた学習の成果であるかどうかとも問わない。さまざまな学習の場、多種多様な学習経験が単位として評価・認定され転移・互換されうるのである。単位制は機関レベルでの学習の柔軟性・弾力性を促進するのみならず、地域や国の境界すらを超えて機能するきわめてラディカルなものとして捉えられている。ただし、単位制の場合には単位の換算方式 (credit tariff) をどのようなものにするかという大きな問題がある。CNAACATSやオープン・ユニヴァーシティのもの以外に、単位制のモデル・パターンとしては以下のようなものが考えられる。

- (1) ある大学・高等教育機関における既存の「モデュラー」を何らかの単位換算方式で評価する。
- (2) ある大学・高等教育機関が既存の「単位累積加算制度」に沿った独立の部局と制度 (a separate CAT unit and CAT scheme) を設置し、学生を CAT students として独自に受け入れる。
- (3) ある大学・高等教育機関が独自に、既存のものとは別個の「単位累積加算制度」を考案する。

おわりに

以上、イギリスの「単位・モデュラー制」について、CNAACATSとオープン・ユニヴァーシティの「単位累積互換制度」を中心にその概要の紹介を試みた。イギリスの「単位・モデュラー制」は多様かつ複雑であり、また急速に動いている。「単位累積加算制度」はCNAACATSとオープン・ユニヴァーシティのそれ以外にもあるようだし (たとえばSouth East England

Consortium for Credit Transfer (SEEC), The Northern Universities' Consortium for Credit Accumulation and Transfer (NUCCT), The Scottish Accumulation and Transfer (SCOTCAT) など), 継続教育においても Open College Networks (OCNs) や Further Education Unit's (FEU) model of credit など独自のシステムが発展している。イギリスの「単位累積加算制度」については調査しなければならない多くの課題や不明な点があり, 本稿の叙述も十分なものではないが, とりあえずまとめておくことにした。

注

- 1) 単位・モジュラー制度の概念については Robert Allen, “An Introduction to Credit-Based Systems” in Allen, R. & Layer, G., *Credit-Based Systems as Vehicles for Change in Universities and Colleges*, London, 1995. pp. 25-39. に簡潔な説明がある。以下の本稿の記述も同論文に拠るところが大きい。
- 2) Robert Allen, “An Introduction to Credit-Based Systems” in Allen, R. & Layer, G., op. cit. p. 25.
- 3) 以下の記述は Allen, R., op.cit., pp. 25-27. による。
- 4) *ibid.*, p. 30.
- 5) 〃 p. 31.
- 6) CNAA CATS については拙稿でかつて紹介を試みたことがあり, 以下の記述もそれに拠る。安原義仁「英国学位授与審議会による単位累積互換制度」『IDE 現代の高等教育』No. 326, 1991年7月, 民主教育協会。なお池 マリ「英国高等教育品質評議会 (HEQC) 単位累積互換 (CAT) 発展プロジェクト報告書『〃変化の選択—高等教育における参加の機会, 選択, 流動性の拡大—』—内容の紹介及び「報告書概要」全訳—」『学位研究』第2号, 学位授与機構, 1994年。同「英国における単位累積互換 (Credit accumulation and Transfer: CAT) 制度の歴史的展開—現代の高等教育制度改革の行方—」『学位研究』第5号, 学位授与機構, 1996年。同「イギリス学位授与機構のその後」『IDE 現代の高等教育』No. 385, 1997年3月, 民主教育協会も参照のこと。
- 7) Allen, R., op.cit., p. 32.
- 8) 〃
- 9) Betts, M., and Smith, R., *Developing the Credit-based Modular Curriculum in Higher Education: Challenge, Choice and Change*, London, 1998, p. 3.
- 10) 以下の記述は The Open University のパンフレット *Validation by the Open University および Credit Rating: Awarding credit for learning programmes* による。
- 11) *Courses; Diplomas and BA/BSc Degrees*, 1997/8, The Open University, 1997. p.6.
- 12) *ibid.*, pp. 55-56.
- 13) Allen, R., op.cit., pp. 34-37.

[ABSTRACT]

The Credit-based Modular Systems in British Higher Education:
With special reference to CNAA CATS and OU Rating System

Yoshihito YASUHARA*

Single honor degree has been the traditional norm of the first degree courses in British higher education, which has been centred on a rigorous academic discipline with rigid scope and sequence. As a result, it tended to lack flexibility and elasticity seen from the students' point of views as learners.

So called credit-based modular systems (CBMS) developed since the 1960's were to challenge the traditional norm and to meet the students' various learning needs which emerged as a consequence of rapid growth of student population.

What are the credit-based modular systems? What are the ideas and notions of CBMS? Why and how have these new models of curriculum construction in the British higher education been developed? This paper intends to clarify these points by referring mainly to the Council for National Academic Awards (CNAA) Credit Accumulation and Transfer Scheme (CATS) and the Open University's Credit Rating System.

* Professor, Hiroshima University